

令和8年度 やまもと LMO まちづくり委員会事業計画書

1 今年度の目標

・昨年度に続き、山本小学校区での認知度を高める。
・地域課題のうち、安全・安心を解決するため、防犯・防災・イベント・ICT 事業を実施する。

2 ひろしま LMO 運営助成金を活用する事業

1 事業名	青色回転灯パトロール	(7) 事業中 (1) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(9) 地域の防犯に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月 ～ 令和9年3月	
(2) 実施場所	山本小学校区	
(3) 参加者数	480 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 山本学区防犯組合、他連携団体	
4 取組内容	リース車両を準備して、防犯パトロールエリアや登下校時の見守体制を強化・拡大させる。そのため、①パトロール協力者を地域（主として連携各団体）から募集し、警察が行う安全推進員の講習を受講させ人員を確保する。②青色回転灯を設置したパトロール専用車をリースして、協力者を当番制に割り当て小学児童の下校時（15 時～17 時）に地域内を巡回し見守る。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） ① やまもと LMO の事業として 3 年目、継続事業。 ② 青色回転灯を装備したパトロール専用の車をリースし、巡回協力者を地域住民から広く募集して、安全推進員の資格を取得させ割り当てにより週 5 回程度に巡回回数を増やすことで、子どもたちや地域住民が安全・安心に暮らせるまちづくりにつなげる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） ① パトロール専用の車をリースしているので、協力者（安全推進員有資格者）が増え、巡回数の増大につながり、子どもたちや地域住民が安全・安心なまちづくりに寄与する。 ② 地域住民が参加しやすい環境にすることにより、連携団体の協力が得られ地域全体の犯罪抑止力強化にもつながる。また放送設備の常備により巡回中の注意喚起が可能となる。	

1 事業名	8.20 やまもといのちをつなぐ集い	(7) 事業中 (2) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月 ～ 令和9年3月	
(2) 実施場所	山本小学校区	
(3) 参加者数	200 人（見込み）※実施日は8月19日、20日予定	
(4) 主催団体	団体名 <u>やまもとLMOまちづくり委員会、他連携団体</u>	
4 取組内容	①山本地域で発生した土砂災害の慰霊式典を8月20日に実施する。 また、広島経済大学興動館の武田山まちづくりプロジェクトの活動休止に伴い、武田山まちづくりプロジェクトが8月20日に開催していた「鎮魂のキャンドルナイト」を、この事業で受け継ぐことになった。 ②地域防災マップの更新、および、避難場所の取り扱い説明書を作成する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 山本学区において発生した災害を忘れないことと、亡くなられた方々に対する追悼、また、今後、山本学区の住民の防災に対する意識を高めるため。2014年の広島土砂災害で2人の幼い子供が亡くなっている。そのことに対して山本学区として何もしてこなかったことがあり、2人の保護者との出会いがきっかけとなってこの事業を行うこととした。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 2025年8月20日に第1回目を実施した。19日、20日の午前中に防災フェアを行い20日の午後に式典を行った。実施前には冊子を作成し関係者に配布。防災フェアには多数の参加者があったことを受けて毎年実施する。継続していけば参加者増が予想でき、山本学区の住民の防災意識が高まっていく効果がある。	

1 事業名	敬老フェスティバル	(7) 事業中 (3) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月 ～ 令和9年3月	
(2) 実施場所	山本小学校 体育館	
(3) 参加者数	400 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 敬老フェスティバル実行委員会、他連携団体	
4 取組内容	敬老フェスティバル目次 10:00～10:15 開会式、10:15～11:50 各種演技(5団体が出演)して①男声合唱団(高齢者の表現豊かなハーモニー)、②幼稚園児の合唱(小さな子供たちの豊かな表現力)、③東ベンチャーズ(特に団塊世代に好評)、④和太鼓演奏 彩鼓あやつづみ(和太鼓の壮厳さ)、⑤女声合唱団(たくさんの声が重なることで生まれる音色の美しさ)、11:50～閉会式	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 長寿に対する祝意と敬意を表す敬老フェスティバルを開催し、顔なじみの関係を築き、交流を深めることを目的とする。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 高齢者同士や高齢者と異世代との交流を図り、高齢者の生きがい創出を図る。 敬老フェスティバルに参加することで顔なじみの関係が増え、地域コミュニティをつくることにつながる。	

1 事業名	盆踊り大会	(7) 事業中 (4) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(1) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年5月 ～ 令和8年10月	
(2) 実施場所	山本小学校のグラウンド及び体育館	
(3) 参加者数	1,000 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 盆踊り大会実行委員会、他連携団体	
4 取組内容	(1) 設備の更新 ① 足場用鉄パイプの檣にする。（専門業者に外注する） ② 提灯、照明器具、配線を新調する。（配置、数量を再検討する） (2) 踊りへの参加者を増やす（運動会などで幼稚園、小学校の協力をお願いする） 伝統の「きそん音頭」を幼稚園、小学校の運動会で取り上げてもらい盆踊りで実践する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） やまもとLMOの事業として3年目、継続実施。 檣を外注して、準備・後片付けの負担が少なくする、できるだけ本番以外の負担を少なくする。住民全員が盆踊への参加を促す。また、踊りについては、参加者全員（特に、子どもと親御さん）が、踊りの輪に気軽に参加できるように練習会などで習得してもらう。（幼稚園、小学校に協力をお願いする） (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 檣を専門業者に外注することで盆踊りに携わるスタッフの安全、作業労力が軽減されその分本番の踊りに集中できる。また、踊りの一部を学校関係の行事や練習会等に取り上げて、練習・習得してもらうことで子どもを含めた地域住民の参加者が増える	

1 事業名	みんなのまちの掲示板制作	(7) 事業中 (5) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月 ~ 令和9年3月	
(2) 実施場所	山本小学校区	
(3) 参加者数	240 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>やまもと LMO まちづくり委員会、他連携団体</u>	
4 取組内容	町中から情報を収集し、モニタを拠点に設置して、みんなが見れるまちの電子掲示板を開設する。個人はスマートフォンやパソコンから同じ情報を閲覧でき、コンテンツの収集・作成・掲示などの作業を地域住民主体でできるように、ICT 関係の講師を招聘して住民向けの講習会を実施する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 山本学区は、自治会加入世帯の減少や解散、社協をはじめ、構成団体において、高齢化の傾向がみられ、これからの「まちづくり」の課題になっている。 電子掲示板を作ることで、地域住民（チーム）による、情報収集・コンテンツ作成・投稿となるので住民の方々との交流が図れるようになる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） ① 電子掲示板を作ると各広報誌の印刷・配布の手間が大幅に削減できる。 ② 電子掲示板に掲示する情報を住民自ら作成・投稿ができる。 ③ 従来の掲示板の位置に出向かなくても情報端末で掲示物の確認ができる。 ④ 情報端末を各拠点に設置することで情報端末が使えない住民でも閲覧できる。	

1 事業名	つながり交流	(7) 事業中 (6) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月 ～ 令和9年3月	
(2) 実施場所	山本学区内（山本集会所、丸子集会所、など）	
(3) 参加者数	360 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>やまもと LMO まちづくり委員会、他連携団体</u>	
4 取組内容	① 三世代交流、顔見知りの関係を築く取り組みとして、住民参加型の教室や講座など、山本学区の地域住民が気軽に参加できる交流の場を提供する。 音楽教室（山本集会所）、すまほ教室（山本集会所、丸子集会所） ② 山本学区の取組等の情報発信をおこなうために、LMO広報誌を発行する。 エルモ通信誌作成	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） イベントや行事などコロナ禍が明けたとはいえ、コロナ前のような地域住民の交流の機会は減っている。山本学区では、小さな講座や教室を定期的かつ随時開催することで、年間を通じて三世代に渡る地域住民が集い・学び・考える、コミュニケーションが図れる交流の場を設ける。またそうした取組を広く地域住民に周知するための情報発信を行う。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 教室や講座を開催することで、多世代間での交流の場の創出や、地域住民の外出の機会を増やすことで、地域コミュニティの活性化を図ることができる。また学ぶ機会を設けることで子ども達の郷土愛の醸成をはぐくむことができる。また、山本学区内外へ広く情報発信や周知することで、さらに住民同士の交流促進につながる。	

1 事業名	三世代交流活動	(7) 事業中 (7) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(9) 地域の防犯に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月 ～ 令和9年3月	
(2) 実施場所	山本小学校区	
(3) 参加者数	2, 000 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 山本学区社会福祉協議会、他連携団体	
4 取組内容	三世代交流活動として、以下を行う。 ① スポーツ（女子野球、女子サッカー、e-スポーツ）を通じた地域交流活動をする。 ・ 野球、サッカーチームの組織と連携した住民の“健幸”とまちづくりを活性化する。 ・ 認知症予防や高齢者と子ども、学生の世代間交流の場などに活用する。 ② サロン百歳体操を通じた地域交流活動をする。 ・ 補助金なしで運営することは厳しくなっており、現状の取り組みを継続する。 ③ 相撲文化を地域に広める活動を通して地域交流活動をする。 ・ 園児、児童と力士の交流や「ちゃんこ鍋」を通じた地域との交流を推進する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 自治体における課題点である財政難、住民とのコミュニケーション不足、自然災害への防災対策などの問題解決として住民同士が顔なじみの関係を築き、交流を深めることにより、持続可能なまちづくりを推進するとともに元気な地域創生を目的とする。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 地域が持つ資源（相撲部屋の設立）や親交のあるスポーツ組織を有効活用しながら、子どもに夢を与え、楽しい・住んで良かったと思える地域活性化に繋げる。	